

## 令和5年度第2回仙台地区教科用図書採択協議会議事録要旨

1 開催日時 令和5年7月14日（金）午後2時30分～午後3時30分

2 開催場所 塩竈市壱番館 会議室

3 委員定数 16名

4 説明出席者 事務局（塩竈市教育委員会 学校教育課）4名

5 開会（進行：松崎学校教育課長）

事務局が開会を宣言、吉木 修 委員より挨拶。

6 確認

事務局が審議に移る前に、本協議会は、文部科学省の通知にあるとおり、静ひつな採択環境の確保に努めるとともに、他地区の審議に影響を及ぼすことのないように、教科書採択の最終期日である8月31日までは非公開とする旨、議事録の作成、ホームページでの公表について確認した。

7 審議（議長：吉木 修 委員）

令和6年度使用教科用図書について

《資料の説明》

事務局 佐藤課長補佐より資料について説明した。

《協議会における採択決定の流れ》

吉木 修 議長より以下について説明、確認をした。

- ・規約第9条により、本日の議決は、委員の出席が半数を超えていることから、有効議決となり、仙台地区としての令和6年度使用の教科用図書採択が決定すること。
- ・仙台地区教科用図書採択協議会規約第十条にあるとおり、各市町村教育委員会から提出された採択計画13市町村分を取りまとめた集計結果と、6月15日・16日に開催した専門委員会による調査研究内容、及び宮城県教育委員会が作成した選定資料、これらを総合的に勘案して決定すること。
- ・「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」の第13条「当該採択地区内の市町村の教育委員会は、協議して種目ごとに同一の教科用図書を採択しなければならない。」に基づき、仙台地区教科用図書採択協議会として、審議を進めること。

（1）小学校用教科用図書審議

《専門委員会における調査・研究の報告》

①国語及び書写について

多田 久美子 代表専門委員より以下の報告がされた。

ア 国語について

・東京書籍は、「見通す」「取り組む」「ふり返る」の三つのステップで単元を構成し、「言葉の力」の獲得が系統的に行えるようになっている。また、一単元一領域を原則とした指導事項の重点化が図られており、児童が、学ぶ内容の見通しを明確に持ち、主体的に学ぶことができるよう配慮されている。発達段階に応じて、身体動作と言語を関連付けて学ぶなど、教材に親しみやすくしたり、確実に習得したりできるような工夫も施されている。

・教育出版は、他教科や日常生活と関連させながら学びを深める教材が選ばれており、学習の充実と発展を図ることができる内容となっている。また、発達段階に応じてSDGsの目標と関連した内容が設定されており、持続可能な社会の担い手の育成を目指す構成となっている。全単元に、単元の学習目標・学習のめあてや、学習の手立てが示され、学習の系統化や重点化が図られており、領域と領域との関連も分かりやすく配列されている。

・光村図書出版は、児童の発達段階に応じた優れた文学教材や、時代のニーズに合わせた説明文、慣用句や漢詩などの教材がバランスよく選定されている。また、伝統的な言語文化を捉える言葉が多く取り上げられている。それぞれの単元では、学習の進め方が分かりやすく示され、主体的・対話的で深い学びにつながるような内容となっている。また、前学年とのつながりを明確に意識できる関連図が冒頭にあり、学ぶべき内容の連続性を意識できるようになっている。

#### イ 書写について

・東京書籍は、単元で学習する内容ごとに見出しが色分けされており、児童が学ぶ内容や系統性及び連続性を意識できるよう工夫されている。一単元に一つの指導事項として「書写のかぎ」が明記されており、児童が単元で身に付ける資質・能力を意識しながら学習を進めることができるようになっている。また、他教科や実生活と関連したページを設定し、目的に応じて手紙やポスター、リーフレット等の教材を取り入れるなど、発展的な内容へと学習の展開が図られている。

・教育出版は、各単元に「めあて」と「ここが大切」が分かりやすく明記されており、児童が見通しを持って学べるよう工夫されている。学習の始めに「ためし書き」、学習の終わりに「まとめ書き」を書くことにより、児童自らが学習前後の変容を捉えられるようになっている。また、各単元で身に付けた内容を、他教科と関連させたり、実生活で活用したりできるように「レッツ・トライ」が設けられている。字形を捉える助けとなるイラストや「とん」「すうっ」といったリズムを感じられる擬音語を取り入れるなどの工夫も見られる。

・光村図書出版は、一教材一目標で、学習のねらいが明確である。各単元の「たいせつ」では身に付ける基礎的・基本的な内容が一目で確認できるようになっている。また、児童の発達段階に応じて指導事項を系統的に位置付け、習得と活用を繰り返しながら知識・技能を高められるよう工夫されている。日本の伝統文化や教科横断的な内容、SDGsやジェンダー、防災等、

現代的な諸課題に配慮した教材も多く選ばれている。さらに、二次元コードの動画コンテンツが豊富に準備されており、正しい姿勢や筆記用具の持ち方、筆使いのポイントを視覚的に確認できるように工夫されている。

【質問・意見等】なし

吉木 修 議長より、国語について全ての教育委員会が推薦する東京書籍を採択することでよいかが諮られた。

【質疑等】なし

全員一致で承認

吉木 修 議長より、書写について全ての教育委員会が推薦する東京書籍を採択することでよいかが諮られた。

【質疑等】なし

全員一致で承認

②社会及び地図について

中津川 雅弘 代表専門委員より以下の報告がされた。

ア 社会について

・東京書籍は、第4学年の学習では身近な地域が教材として取り上げられており、宮城県内の児童が意欲を持って学習に取り組める内容になっている。また、すべての単元に、単元のめあて、小単元の学習問題、本時のめあてが構造的に示されており、問題解決的な学習を効果的に進められる工夫がなされている。第5・第6学年は分冊になっており、児童の重量負担を軽減する配慮がなされている。

・教育出版は、全学年において「社会科で使う見方・考え方」を示し、社会科を学習する上で必要な視点や方法を生かした問題解決的な学びを促している。学習の終末には、「次につなげよう」として、次時につながる問い合わせ掛けが単位時間ごとに示されており、児童が学習のつながりを継続的に意識できるように工夫されている。第6学年「日本の歴史」では、白黒写真をカラー化した画像を掲載し、児童の関心・意欲を高める工夫がなされている。

・日本文教出版は、見開き1ページの中に、問題、表やグラフ、写真などの資料、本文、児童の気付きや疑問が掲載されており、学習課題を自力解決できるように構成されている。巻

末には、学んだことや身に付いた力を振り返る内容と次年度の見通しを持つ内容が掲載されており、次年度の学習にスムーズに移行できる配列となっている。また、本文のフォントのサイズを大きくすることで読みやすくなっている。

#### イ 地図について

- ・東京書籍は、主体的・対話的で深い学びにつながるように、問い合わせのコーナーが設定され、楽しみながら地図の学習ができるよう工夫されている。また、日本の自然災害については、要因や防災対策について考察させるなど、発展的な学習を進めるための配慮がなされている。キャラクターを随所に置いて地図活用の手掛けたりを示したり、ゴシック系UDフォントを使用して地名などを読み取りやすくしたりしている。
- ・帝国書院は、第3学年からの使用に対応し、地図の基本から使い方について段階的に扱っており、第6学年までの発達段階における学習の意欲付けを図る構成となっている。また、「広く見わたす地図」から「日本の各地方を見る地図」と配列され、活用度の高い使用学年に配慮がされている。軽くて丈夫な地図専用紙の開発や表紙の汚れを防ぐシートの使用など、4年間の使用に耐えるよう丈夫な製本仕様になっている。

#### 【質問・意見等】なし

吉木 修 議長より、社会について全ての教育委員会が推薦する東京書籍を採択することでよいかが諮られた。

#### 【質疑等】なし

全員一致で承認

吉木 修 議長より、地図について全ての教育委員会が推薦する帝国書院を採択することでよいかが諮られた。

#### 【質疑等】なし

全員一致で承認

#### ③算数について

市川 知香 代表専門委員より以下の報告がされた。

- ・東京書籍は紙面下部に二次元コードが配置されており、答えやヒント、解説などが見られ

るようになっているため、自己の学びを調整できるように配慮されている。また、練習問題をタブレット端末でも解くことができ、追加問題なども収録されているので、つまずき解消の取組につなげることができるようになっている。問題、課題、自力解決、学び合い、まとめ、適用問題と学習過程の基本的な流れが明確になっているので、児童が主体的に学習に取り組むことができるようになっている。文字の大きさが適切で、必要最小限の言葉で表現されているので、ヒントやまとめが簡潔かつ明瞭になっている。また、写真やイラストと式へのつながりが見やすく、身近な生活と関連付けて考えやすくなっている。

・大日本図書は目次に「前の学習」と「後の学習」が明記されており、学習の系統が分かり、つながりを押さえて学習に取り組めるようになっている。また、「算数の大切な考え方」を巻頭で示すとともに、学習の中で発見した見方や考え方を巻頭のシートに記録していくことで、以降の学習に活用できるような工夫がされている。「めあて」「発見！」「学び合おう」という児童に分かりやすい表現がされ、学習の見通しが立てやすいよう工夫されている。問題が右ページ、解決のヒントや流れが次ページに配置されていることで、自力で解決できる児童は次ページを見ずに、ヒントがほしい児童は次ページを見ながら取り組むといった自己の学びを調整できる配慮がされている。

・学校図書は身近な疑問から課題を見付ける「？を発見」と「つながりの？」を設定することで学習サイクルが明確になるようになっている。また、「問い合わせ」「めあて」「まとめ」が太字で示されており、大切なポイントを押さえやすく、児童が1時間の学習の流れを理解して主体的に学習に取り組めるように配慮されている。「考え方モンスター」というキャラクターで数学的な考え方を適宜示すことで、児童の思考の手助けになるとともに、親しみを持って、数学的な見方や考え方を身に付けたり活用したりすることができるよう工夫されている。「できるようになったこと」で自己評価をしたり、つまずきやすい内容をもとに「算数パトロール隊」で基礎的・基本的な内容が理解できているか確認したりできるようになっている。

・教育出版は「算数のミカタ」で前学年までの数学的な見方・考え方を明示し、「つながるミカタ」で見方・考え方を顕在化し、学びの深まりを実感できるように工夫されている。また、毎時の学習の流れは「はてな、なるほど、だったら」の問い合わせをつなげる展開で位置付けており、児童が意欲的に学習に取り組めるように工夫されている。さらに、児童が間違えやすい問題を学習内容に重点的に取り入れることで、つまずき解消の取組につなげができるようになっている。単元末に「4コマ漫画」を掲載することで、単元の学びを振り返るとともに、算数のよさや有用性をより身近に感じられるように工夫されている。また、文章表現が平易で理解しやすく、イラストや余白の大きさが学年に応じており、児童が親しみや

すいよう配慮されている。

・新興出版社啓林館は巻頭に「算数でつかいたい考え方の進め方」を明示したり、各時間で特に価値付けたい見方・考え方にはマーカーで強調したりして、見方・考え方を働かせて考えられるよう展開している。また、単元末に「学びのまとめ」を設定し、学習内容を習熟することができるよう配慮されている。付録が充実しており、体験的活動から理解を深めたり量感を養ったりできるような配慮や、同じ学習用具で測定などの練習ができるような工夫がされている。問題文の改行位置を意味で区切ったり、筆算や分度器の使い方などの挿絵が見やすかったりするなど、児童が見やすく、意欲的に取り組みやすいように文字配置や構成が工夫されている。

・日本文教出版は「自分でみんなで」として問題解決的な学習の進め方を明示している。また、「めあて」の近くに各時間に働く数学的な見方・考え方を配置することで、見通しを立てる着眼点となるようにしている。単元前に「次の学習のために」を設け、継続的な学習、学年間の円滑な接続に配慮している。単元末の「学習をたしかに」では単元の学習を振り返り、巻末の「算数マイトライ」は、基本的、応用的、探究的な問題の3段階に分けられており、児童一人一人の実態に応じて柔軟に取り組めるように設定されている。重要な語句はクリーム色で統一し、重要な言葉や学習を進める上で必要な数学用語や説明は本文と書体を変えて表記するなど、見やすい配慮がされている。

#### 【質問・意見等】なし

吉木 修 議長より、算数について全ての教育委員会が推薦する東京書籍を採択することでよいかが諮られた。

#### 【質疑等】なし

全員一致で承認

#### ④理科について

佐藤 聖子 代表専門委員より以下の報告がされた。

・東書書籍は、単元の導入で、「やってみたい」「ふしぎだな」と思える身近な場面を提示することにより、児童の興味・関心を引き起こし、自ら問題を見いだして学習に取り組むことができるよう工夫が見られる。学習の過程には、教科書と一体化した多様なデジタルコンテンツが掲載されており、児童が自分の学習状況に応じ、端末を利用して主体的に活用できるよう

配慮されている。文章と絵図の構成バランスが良く、重要な情報を視覚的に捉えやすいことも特徴である。情報を活用しながら学習を進めることができる構成になっている。

・大日本図書は、問題解決の全過程を明示しており、見通しを持って観察、実験に取り組むことで、主体的に問題解決する資質・能力を育むことができるような単元構成になっている。各単元に掲載されている「Science World」は、身近な例を用いることで、より児童の興味・関心を高め、理解を深めるような内容となっている。また、ノートのまとめ方や記録の仕方、観察、実験の記録の例が掲載しており、言語能力の育成を図る配慮がなされている。レイアウトの面では、1単位時間の学習内容を見開きで大きく表しており、見やすく、学習の流れが視覚的に捉えられるものとなっている。

・学校図書は、身近な生活場面や科学的なエピソードなどを取り上げることで、児童が疑問を持ち、問題解決への意欲を高めることができるような工夫がされている。学び方を「理科モンスター」というキャラクターで表現し、単元冒頭で提示することにより、学習の見通しに加え、内容系統性を意識できるよう配慮されていることも特徴の1つである。単元末の「できるようになった」では自己評価の場面が設定しており、振り返りを行うことで自己の成長を実感できるような配慮がされている。また、自分の予想や考えを整理して伝え合い、多様な考えを基に学びを深め合う場面が多く設定されており、対話的な学びへつなげる工夫が見られる。

・教育出版は、学習の過程に「見方・考え方のカギ」のマークが示されており、児童が見方・考え方を働かせる際の手掛かりとなるような工夫が見られる。単元末には、振り返りとたしかめを見開きで掲載し、インプットとアウトプットの両方による定着を図る構成になっている。また、理科室や器具・機器の使用が学年間で重ならないような配列がなされている。巻末には、器具や装置などの取扱いの解説があり、繰り返し確認しながら技能の習得ができるよう配慮されている。全体的に活字の書体や配色が見やすく、重要な語句を太文字やマーカーで強調する工夫も見られる。

・信州教育出版は、巻頭に「理科の学習の進め方」が示され、問題解決の見通しを持って主体的に学習を進めることができるように配慮されている。どの単元においても観察や実験などに関する豊富な情報が示され、学習内容に関するコラムは、発展的な学びの展開を図ることができるような工夫が見られる。また、参考資料や補助資料を閲覧できる二次元コードが適宜配置され、児童が自分の興味・関心に合わせて学習を深めることができるように工夫されている。

・新興出版社啓林館は、問題からまとめまでをひとつなぎの「学びのライン」で示し、内容のまとめりを捉えやすい工夫がされている。「問題をつかもう」や「結果から考えよう（考察しよう）」などの段階においては、対話的・協働的な活動の具体的な様子を示し、思考力、判断力、表現力等の育成を図る工夫が見られる。適所に掲載した「器具の使い方」には、丁寧な解説が

あり、基本的な技能を習得できるように工夫されている。また、確かめ問題を二次元コードから行うことができ、自分で理解度を確認しながら学習を進めることができる構成となっている。

【質問・意見等】なし

《理科の教科書について》

吉木 修 議長より、理科について推薦する教育委員会の数が多い東京書籍を採択することでよいかが諮られた。

【質疑等】なし

全員一致で承認

⑤生活について

曾根 真由美 代表専門委員より以下の報告がされた。

・東京書籍は、上巻は主に身近な人やもの、下巻は地域の人やものへと対象が広がっていき、学校や地域の実態に応じて、発展的、選択的に活用できるように学習内容が構成され、学習意欲が高まるような工夫がされている。また、上巻冒頭でスタートカリキュラムを意識した構成がなされ、以降は児童が四季の変化を意識しながら活動できるよう季節の流れを中心に時系列

に単元が配列、構成されている。具体物を使った振り返り活動などを例示し、児童の主体的・対話的で深い学びにつながるような工夫がされている。さらに、単元扉は見開きでダイナミックな写真が使用され、児童の思いや願いを膨らませることができるように配慮されている。

・大日本図書は、多様な活動が示されており、地域や学校の実態に応じて選択できるようになっている。季節の流れに沿った大単元構成で、児童の意識に沿って無理なく季節と活動を結び付けることができるよう工夫されている。また、活動内容が見開きごとに分かりやすく示されており、児童が活動内容をつかみ、見通しを持って学習できるよう配慮されている。自分の気

持ちや考えを書き込む枠が設けられており、主体的に学習が進められるよう工夫されている。さらに、児童の興味・関心を高めるモノクロの写真や挿絵が豊富に掲載されており、子どもの感性を刺激する工夫がされている。

・学校図書は、児童の願いや意欲を表した自発的な言葉を中心に活動を進めることにより、主体的な活動を引き出すための工夫がされている。入学時の不安や心配を取り除くようなスタートカリキュラムや、「もっと」のページで発展的な学習が進められるようになっているなど、配慮されている。また、記録例が発達段階に則して考慮されており、簡単な言葉による記述か

ら文章を書き込む形式へと変化し、他教科の学習と関連して指導が進められるようになっている。見開き単位で活動が構成されており、各ページの見出しや写真の位置をそろえるなど紙面構成が工夫されている。

・教育出版は、児童の意欲を高めるような導入の写真や気付きを促す吹き出しが多くあつたり、自分の思いを書き込む欄があつたりと、児童の思考の流れに沿った学習内容が示されており、主体的に取り組めるような構成となっている。また、単元導入「わくわくスイッチ」での動機付け、「はっけんロード」「はてな」「ヒント」での深い学びへの導き、「ぐんぐんはしご」での振り返りで構成され、自らの成長を自覚できるような工夫がされている。さらに、上下巻の巻末の「学びのポケット」において、他教科での知識・技能を分かりやすく分類することにより、生活科と他教科をつなぎ確かな学力が身に付くよう配慮されている。

・信州教育出版は、身近な人々や社会・自然との関わりを大切にしている。四季を通して繰り返し地域に足を運ぶことで、直接体験を通して多様な気付きや発見の喜びを引き出し、ふるさとへの愛着を深められるように構成されている。また、「感動体験」「探求活動」「表現活動」を多様に示し、より深い学びや活動につながるようになっている。学習内容についての説明などを少なくし、写真や絵をもとにして多様な学習が展開しやすいよう工夫されている。さらに、縦書きの表記となっており、幼児期に多く手に取って触れてきた絵本と同様、親しみやすく、国語科や道徳科との関連を意識した作りとなっている。

・光村図書出版は、全単元において、児童にとって取り組みやすい学習内容や学習対象が取り上げられており、体験活動が充実するよう配慮されている。学習過程が見える写真とともに全小単元で「学びのヒント」が示され、自分の学びを確認することができるよう工夫されている。また、資料編「ひろがるせいかつじてん」が分冊で構成されており、主体的な学びを深められるようになっている。さらに、「ヨシタケさんのコーナー」で、予想される児童の様子が挿絵で示されており、自分らしく学ぶことの大切さを知ることができたり、挿絵が統一されており読みやすくなっていたりと、配慮されている。

・新興出版啓林館は、身近で分かりやすい学習教材が取り上げられており、上巻冒頭のスタートカリキュラム「すたあとぶっく」から活動がだんだんと広がるように構成されている。また、「びっくりずかん」「がくしゅうずかん」「デジタルたんけんブック」の3つの図鑑を示し、学びを豊かにする工夫がされている。さらに、単元が「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階で構成されており、単元全体の流れが分かりやすいようになっている。紙面の最後に「めくり言葉」が示され、次の学習に向けて学習意欲が途切れないと工夫されている。

**【質問・意見等】なし**

吉木 修 議長より、生活について推薦する教育委員会の数が多い東京書籍を採択することでよいかが諮られた。

**【質疑等】なし**

全員一致で承認

**《採択希望の訂正について》**

奥野 光正 委員より、事務局に提出した音楽の採択希望報告に誤りがあり、訂正についての申し出があった。内容について全体で確認するとともに、改めて採択希望報告書を提出することを確認し、全委員の承認を得た。事務局より、資料の訂正箇所について改めて報告を行った。

**《専門委員会における調査・研究の報告再開》**

**⑥音楽について**

佐藤 嘉美 代表専門委員より以下の報告がされた。

・教育出版の「音楽のおくりもの」は、6年間を見通し、系統性のある題材配列で子供たちが楽しみながら学びを進めることができる教材で構成されている。また、どの学年にも共通した「全校合唱曲」の記載や巻末に「音楽のもと」のまとめや「楽器図鑑」「音楽を表すいろいろな言葉」など基礎・基本となる事項がイラストや写真とともにまとめられ、多様な学びを促す工夫がされている。また、原寸大の鍵盤ハーモニカの写真が1・2年生に掲載されており、実際に楽器を演奏する前に音の場所の確認や指使いの練習等で活用することができる。二次元コードも豊富にあり児童自身の学びを促進するなど音楽に親しみやすい工夫が見られる。また「まなびナビ」のマークを手掛かりに、学び合いについての示唆が随所に示され、協働的な学びを引き出す工夫がされているとともに、どのように学習を進めていけばよいか教師も児童も分かりやすいよう配慮されている。

・教育芸術社「小学生の音楽」は、学習指導要領の目標を踏まえ、題材が組織的、系統的に構成されており、6年間の積み重ねを意識した内容の工夫が図られている。低学年では、児童の音程感覚を養うために、階名「ドレミ風船」として表示し、授業で音を聴かせながら目と体で音の高さを実感できるよう工夫されている。また、教材ごとに「見つける」「考える」「演奏する」「歌う」等のマークを示すなど学習の手順が段階的に丁寧に示されており、指導の手順が明確になっている。教科書冒頭に「学習マップ」を載せて、1年間の学習内容が見通せるようになっており、巻末に「ふり返りのページ」を載ることで、既習事項を確認し、学習内容

の定着が図られるよう配慮されている。鑑賞教材、演奏教材共に二次元コードが表示されているため、全体だけでなく児童自身でもタブレット等で模範演奏や鑑賞曲の一部を聴くことができるよう工夫がなされている。

【質問・意見等】なし

吉木 修 議長より、音楽について推薦する教育委員会の数が多い教育出版を採択することでよいかが諮られた。

【質疑等】なし

全員一致で承認

⑦図工について

藤澤 知広 代表専門委員が欠席のため、事務局 佐藤課長補佐より報告書が代読された。

・開隆堂出版は、紹介されている児童の作品が、「これならつくれそう」と感じさせるものが多く、学習意欲を高める工夫がなされている。また、オリジナルキャラクターを通して3つの資質・能力や題材のめあてを児童に分かりやすい言葉に直して示されている。それから、全ての題材ページに二次元コードが大きく記載されており、作品をつくる上での参考動画を視聴したり、鑑賞や振り返りで活用できるワークシートを利用したりすることができるようになっている。さらに、児童の表情が分かりやすい写真を採用しているため、活動に没頭していたり楽しんでつくったりしている様子がよく感じ取れるようになっており、題材のもつ魅力が伝わるよう配慮されている。

・「日本文教出版」は、全題材に「鑑賞」が位置付けられていて、表現活動と鑑賞の一体化が図られた配列となっている。また、題材ごとに二次元コードを通して、関連する作家の作品や児童作品、用具の使い方などが見ることができるようになっており、児童の興味関心を高め、主体的な学習態度の形成を進められるよう配慮されている。それから、「ずこうのみかた」や「教科書美術館」のコーナーは、新たな視点を投げ掛けたり、発想を促したりするコーナーとなっている。これらのコーナーは、見開きや観音開きにして大画面で紹介されており、強くひきつける工夫もなされている。さらに、プラスチック系の廃材を使った題材が少なく、SDGsを意識した題材の構成がなされている。

【質問・意見等】なし

吉木 修 議長より、図工について全ての教育委員会が推薦する開隆堂を採択することでよいか

が諮られた。

【質疑等】なし

全員一致で承認

⑧家庭について

福田 愛沙 代表専門委員より以下の報告がされた。

・東京書籍は、各題材とも問題解決的な学習が繰り返し行えるよう3つのステップで構成されており、小題材ごとに「めあて」と「ふり返ろう」を設けることで、学習内容が定着するよう工夫されている。また、巻頭に「家庭科の窓」を設定し、生活の営みに係る見方・考え方の視点を児童にしっかりと意識させることができるようになっていたり、学習内容を実際の生活場面で生かせるような内容が配置されていたりと、よく精選されている。日常生活に必要な技能をすぐに確認できるよう巻末でまとめて示したり、動画やワークシートが豊富にあるデジタルコンテンツを活用したりすることで、基礎的・基本的な知識・技能をより確実に定着できるよう構成されている。

・開隆堂出版は、各題材とも主体的・対話的で深い学びが進められるよう3つのステップで構成されており、家庭生活を見つめながら活動につなげていけるように工夫されている。題材の最初のページには、その題材で意識する「生活の営みに係る4つの見方・考え方」がクローバーで掲載しており、児童の興味・関心を高める工夫が見られる。右ページ上に統一して掲載されている二次元コードには、実習の作業手順が段階を分けて確認できる動画やワークシートがあり、基礎的・基本的な知識・技能の習得に役立てられるよう配慮されている。また、判型がA4判と大きくなり、実習や製作などの手順は横流れのデザインで見やすくなっており、児童が主体的に学べるようレイアウトが工夫されている。

【質問・意見等】なし

吉木 修 議長より、家庭について推薦する教育委員会の数が多い東京書籍を採択することでのよいかが諮られた。

【質疑等】なし

全員一致で承認

## ⑨保健について

及川清太郎 代表専門委員より以下の報告がされた。

・東京書籍は、「気づく・見つける」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」の4つの段階の学習活動が設定されており、児童の気付きや経験を生かし、主体的に学ぶことができるよう構成されている。また、資料から分かることや児童の考えを書く欄のバランスが良く、児童の能力や特性に対応できるように配慮されているとともに、伝え、話し合う活動があることで思考力・判断力・表現力の育成を推進できるようになっている。写真や図、絵などは児童に疑問を持たせられるものが豊富に掲載されています。

・大日本図書は、児童が新しい学習内容に興味・関心を持てるように、各章の導入に学習ゲームや簡単な運動などを取り入れている。また、各章の終わりには、知識及び技能を定着させるための問題が設定されており、学習した内容を児童が振り返りながら確認できるよう工夫されている。さらに、「話し合おう」などグループで行う学習活動が多く配置されており、児童が自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたり認めたりすることができるよう配慮されている。

・大修館書店は、本時の学習課題を「きょうの課題」として示し、学習すべき内容を明確にして、知識・技能の確実な習得を図るように工夫されている。また、言語活動の充実を図るために、友達と話し合い、互いの考えを共有したり思考を広げたりする対話的な活動が豊富に設定されている。さらに、章の扉では、健康や安全について著名人を取り上げ、キャラクターとの対話を通して、児童が興味・関心を持って、主体的な学びをスタートさせることができるように工夫されている。

・文教社は、健康や安全に関する課題が児童の視点で記載され、学習したこと自分のこととして捉えることができるような内容構成になっている。授業のまとめでは、児童が今後の生活で心掛けたいことを考えるための記入欄が設けられ、主体的な活動へ促すための工夫がされている。また、更に深く考える内容を掲載し、発展的な内容へつなげている。さらに、各单元の終末は「わたしの〇〇宣言」となっており、自分の考え方や今後の生き方を宣言する形で学習のまとめができるよう配慮されている。

・光文書院は、健康や安全について、「見つける」「知る」「生かす」という段階の学習過程で構成され、児童が学習の見通しを持ちやすくなっている。また、章末に「学習のまとめ」があり、知識の定着、児童の主体的に学ぼうとする態度の確認、実践する力の育成できるよう工夫されている。さらに、学習内容を、児童が実生活の中で生かすことができる資料や運動遊びの例などが示されている。

・学研は、課題解決の過程が「自ら取り組む活動」「対話的な活動」「活用」の3つで構成されており、個別最適な学びと協働的な学びの実現がしやすくなるように配慮されている。また、各項目の導入には、予想したり、経験を振り返ったりする活動などが設けられており、児童が興味・関心を持って主体的に学習に取り組めるように工夫されている。さらに、確実に習得してほしい内容については、本文で丁寧に記述され、健康・安全についての基礎的・基本的な内容を習得できるように工夫されている。

【質問・意見等】なし

吉木 修 議長より、保健について推薦する教育委員会の数が多い東京書籍を採択することでよいかが諮られた。

【質疑等】なし

全員一致で承認

⑩外国語について

築瀬 里香 代表専門委員より以下の報告がされた。

・東京書籍は、発達段階に応じたテーマで単元が構成されており、各教科・中学校とのつながりが意識できる内容である。環境問題や食糧問題など今日的課題を取り上げ、児童自身が考え、表現する単元が多くある。巻頭にアルファベット一覧表があり、書く活動で常に確認ができる上に、なぞり書きやローマ字の指導に細やかな配慮がなされている。デジタルコンテンツが充実しており、発表やパフォーマンステストで思考力・判断力・表現力等を見取る場面が設定されている。左利き児童向けに紙面の両側に手本が印字されたり、全Unitの紙面配置が統一されたりしていることにより、児童が学習活動に取り組みやすい仕様となっている。

・開隆堂出版は年間の学習を見通し、学習の区切りで自己の成長や課題を確かめながら取り組むことができるような構成になっている。キャラクターが成長していくストーリー立ての設定で、児童は日常生活の中で英語を学ぶことができるとともに、登場人物が多様性に富んでおり、多文化・異文化理解を促す内容になっている。相手意識、目的意識を持ち児童同士がペアやグループ、学級全体で伝え合う言語活動が設定され、多様な形態でのコミュニケーションが可能である。タイトルデザインや紙面における活動の配置が統一され、発色が優しく明るい配色となっているため、刺激が低く色覚の多様性への配慮がなされている。

・三省堂はテーマごとに3つの大単元が設定され、その中のLessonで語句や表現を習得できるようになっている。まとめの言語活動の前に、発表内容を考えたり、児童同士で練習し合っ

たりする活動が設定され、対話的・協働的に学び合うことができるよう構成されている。また、「道案内」「買い物」などの特有の場面で使われる表現を集中的に学習する時間が設けられている。ゆとりをもった体裁、視覚への刺激が少ない配色、十分な大きさの書き込み欄など各単元の構成も統一されているため、児童にとって見やすく、学びやすくなっている。

・教育出版は、巻頭に各学年の年間の学習目標、単元の始めに各目標が明示しており、児童が見通しと目的意識を持って活動するとともに、自己評価や学びを振り返ることができるよう構成されている。また、気付きや思考を促す「Think コーナー」や、他者とのよりよい関わり方を意識させる活動、全体で取り組む協働活動など、互いを尊重する態度や豊かなコミュニケーションを育むための活動が設定されている。紙面では、UDフォントが使用され、児童がアルファベットを書く際に近い書体を使用し、4線の上下幅の比率を4：5：4とするなど、書く練習がしやすいように配慮されている。

・光村図書出版は、児童が、英語を学ぶ意味や相手に配慮しながらコミュニケーションを図る大切さについて考えることができるように構成されている。各単元は全て Hop、Step、Jump で構成されており、学習する言語材料をスパイラルに学ぶことができる。また、各単元の最後に書く学習が設定されており、4技能5領域の学習をバランスよく進められる。それぞれのページには二次元コードが記載され、活動のモデル動画を見ることで主体的な学びを促すことができる。

・啓林館は、Stepごとの達成度を示すバロメーター、Unitごとの振り返り、巻末のCAN-DOリストなど、学習の区切りで目標に対する達成度や基礎的・基本的技能の習得を確認することができるよう構成されている。また、「コミュニケーションに大切なこと」や「Watch and Do」のコーナーを通して、児童が主体的にコミュニケーションの改善や工夫ができるよう配慮されている。すべての児童が学習しやすいように、UDフォント、配色や色調、余裕のある余白や字間など視覚的な配慮がなされている。

#### 【質問・意見等】なし

吉木 修 議長より、英語について全ての教育委員会が推薦する東京書籍を採択することでよいかが諮られた。

#### 【質疑等】なし

全員一致で承認

## ⑪特別の教科 道徳について

青砥 裕史 代表専門委員より以下の報告がされた。

・東京書籍は、問題解決的な思考を促す教材文、実在の人物のエピソード、感動をもたらす物語文など様々な教育課題に対応した内容を取り扱い、よりよい生き方について考えを深められるようになっている。特にいじめ防止に関わる内容について、学校全体で問題に向き合えるよう全学年同時期の配置がされている。教材の最後に「道徳的価値に迫る発問」「自身の生活を振り返る発問」が掲載されており、児童の問題意識を喚起し、主体的な学びや自分のこととして授業と日常生活をつなぐことができる工夫がされている。

・教育出版は、長く親しまれてきた教材だけでなく、SDGsや人権について考えられるような現代的な課題を扱った教材もバランス良く掲載されており、多様な文化や価値観の変化への対応に配慮されている。いじめ問題、情報モラルについては全学年を通して重点テーマとしており、児童一人一人が自分との関わりで考えられるようになっている。また、問題解決的な学習の中で、児童自らが問題を見付け、主体的に考えたり、対話を通して考えを深めたりすることが出来るよう工夫されている。

・光村図書は1年間を通して内容項目だけでなく、いじめ、情報モラルなどの現代的な課題をテーマユニットで学習する教材、SDGsに関わる教材が配置されており多様な価値観について学習できるようになっている。特に「生命の尊さ」に重点が置かれ、生命の連續性、有限性、偶然性について考え、生命を大切にしようとする心を育てる工夫がされているのが特徴である。成長の実感を児童が得られるよう、自己の評価表が巻末に配置されていたり、学び方に関するページも掲載されたりと、個別最適な学び、協働的な学びにつながる工夫がされている。

・日本文教出版は、児童の発達段階に応じて、各学年「いじめ」ユニットが効果的に配列されている。また、情報モラルなどの社会的・現代的課題にも対応した内容が取り扱われており、学級の実態に応じて授業を構成できるような工夫がされています。問題解決的、体験的な学習例が紹介されており、議論したことをもとにさらに児童自身につなげて深められるようになっている。教科書に対応したノートには、学びの記録を累積できるようになっている。

・光文書院は、巻頭の手引きで「道徳の時間」について説明されている。考え方や話し合い方について具体的な方法が示されていて、児童が他者と対話したり協働したりしながら、多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。各学年で重点テーマを設定しており、複数の教材と読み物を配置し、内容項目を関連的・発展的に捉えることで学習効果が高まるよう工夫されている。また、学習時期と教材内容の時期が一致するよう教材が配列されており、児童が自分のこととして捉えやすいようになっている。

・学研は、道徳教育の目標達成のために、「プラス思考」と「未来志向」を備えた児童の育成を目指した内容となっている。長く活用されてきた教材に加え「考える意欲」を生む新しい教材を配列し、児童の関心を高めるよう工夫されている。また、内容項目だけではなく、「食育」「スポーツ」などの様々なテーマから考えることができるようになっている。自分との関わりで考えることができるよう、吹き出しを活用したり、自分だったらどうするか考えたりするなど、多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。

各社とも指導要領に示された4つの視点に沿って内容項目がバランス良く取り上げられていた。体裁についても各社とも、全体的なページの構成や色彩、写真イラストの大きさや配置等が十分工夫されており児童が学ぶ意欲が配慮されたものになっていた。教科書に使用された用紙なども環境に配慮された紙インキ印刷方式を採用されている。

#### 【質問・意見等】なし

吉木 修 議長より、特別の教科道徳について推薦する教育委員会の数が多い東京書籍を採択することによいかが諮られた。

#### 【質疑等】なし

全員一致で承認

#### 《採択結果についての確認》

吉木 修 議長より、採択の結果について教科ごとに再度確認をした。

#### (2) 特別支援学級用教科用図書審議

##### 《専門委員会における調査・研究の報告》

矢口 かをる 代表専門委員より以下の報告がされた。

・知的障害を有する児童生徒が使用する教科用図書は、その発達段階、障害の程度に応じて効果的な指導を進めるために、次の四段階から採択を検討することになっている。一段階として、通常の学級と同様の当該学年の「検定済教科書」を検討する。当該学年の検定済教科書で学習することが困難な場合には、二段階として「下学年の検定済教科書」を検討する。下学年の検定済教科書でも学習することが困難な場合には、三段階として通称「☆印本」と言われる文部科学省著作教科書を検討する。「☆印本」と言われる文部科学省著作教科書で学習することも困難な場合には、四段階として学校教育法附則第9条の規定による教科用図書となる絵本等の「一般図書」を検討することとなる。特別支援学級に在籍し知的障害を有する児童に対し、特別な教育課程での

学習を進めるうえで、各学校では四段階の内容を検討しながら適切かつ必要な教科用図書を採択することになる。これらの点を踏まえ、文部科学省著作教科書である「☆印本」並びに「一般図書」について、様々な実態に応じて効果的な指導ができる図書であるかどうかに留意しながら調査研究を行った。調査研究を行った「☆印本」16冊、「一般図書」122冊のすべてについて、「様式A」にあるように、内容、組織・配列、学習・指導、表現・体裁の四つの観点から評価を行った。さらに、「様式B」のとおり総合的評価を行った。

・「☆印本」は国語、算数、音楽の3教科がある。また、教科用図書採択参考資料にはないが、次年度から「せいかつ」が三冊加わる。☆印本は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の各教科の目標に則って作成されている。星1つから星3つは、小学部のそれぞれの教科の目標および内容が、星4つから星5つは、中学部のそれぞれの教科の目標および内容があてはまる。

「☆印本」は、小学部・中学部の目標を受け、教科学習の目的を系統的に学ぶことができるよう編成されている。それぞれ、絵や写真が多用され、視覚的に物事を捉えやすくなっていることから、問い合わせに対する考え方や表現の仕方を具体的にイメージできるよう配慮されている。また、生活場面に即した内容が多く取り上げられており、体験を通して学習しやすく、さらに学習した内容を生活場面でまた繰り返すことによって、理解を深めたり定着を図ったりすることができるよう工夫されている。絵本等の「一般図書」には、小学校用が82冊、中学校用が40冊、計122冊ある。児童生徒の五感を刺激し知的好奇心を引き出せるような、音や音楽の鳴る絵本、触った感触により違いや形の確認ができる絵本、色彩豊かなイラストで興味関心を引いたり、制作方法や完成品を写真で分かりやすく示したりしている絵本や図鑑など、児童の探究心や制作意欲を高めることができる図書が多数ある。また、児童生徒の生活に欠かせない調理、防災、性教育、外国語、道徳に関する内容の図書もある。今年度も学習指導要領のねらいに迫る観点から、小学校では生活・道徳の領域で6冊、中学校では国語・理科・外国語・道徳で6冊が新に加えられている。調査研究において、知的障害を有する特別支援学級の児童生徒一人一人に応じた指導に、すべて適切な図書であると評価した。今回報告した文部科学省著作教科書である☆印本19冊、一般図書122冊のすべてが教科用図書として採択されるに適したものである。

#### 【質問・意見等】なし

##### ①文部科学省著作本について

吉木 修 議長より「文部科学省著作本」についてすべて採択でよいかが諮られた。

#### 【質疑等】なし

全員一致ですべて採択で承認

②小学校用一般図書について

吉木 修 議長より「小学校用一般図書」についてすべて採択でよいかが諮られた。

【質疑等】なし

全員一致ですべて採択で承認

③中学校用一般図書について

吉木 修 議長より「中学校用一般図書」についてすべて採択でよいかが諮られた。

【質疑等】なし

全員一致ですべて採択で承認

(3) 中学校用教科用図書（検定図書）について

吉木 修 議長より「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条」に基づき、政令で定める期間4年間は使用を続けることとなっていることが確認され、中学校用教科用図書（検定教科書）については、令和2年度に採択され令和3年度より使用しており、令和6年度も一覧表どおりでよいかが諮られた。

【質疑等】なし

全員一致で承認

吉木 修 議長が審議の終了を宣言。

8 その他

事務局 佐藤 課長補佐より、採択報告書の作成を依頼した。

9 閉会

奥野 光正 副会長より閉会の挨拶。

会議のすべてを終了した。

上記のとおり、令和5年度第2回仙台地区教科用図書採択協議会の会議経過及びその結果を明確にするために、この議事録を作成し、会長が署名及び押印する。

令和5年7月18日

仙台地区教科用図書採択協議会 会長 吉木 修

